

## アルゼンチンモリゴキブリは日本に進出するのか

後藤 海一璃 (甲南高等学校 生物研究部 ゴキブリ班)

### はじめに

アルゼンチンモリゴキブリ(以下デュビア)は外来種であり、もちろん野外に放してはいけませんが、日本の自然環境には定着できないため、そこまで心配はいらないと考える人もいる。ところが、2021年2月11日に千葉県で野生のデュビアを見たというニュース(共同通信:南米ゴキブリを野外で確認、千葉)を耳にして、日本で冬を越せるのだろうかという疑問を持ち今回の研究をした。デュビアは、飼育書によると20~25℃が適温であると書かれている。一方、日本では関西であっても、冬には最低気温が氷点下を下回る日もある。そこで、今回は日本(関西)の自然環境でデュビアが生育できるのかを気温に着目して調査することにした。

### 方法

小型の飼育ケースを8つ用意し、それぞれに餌(昆虫ゼリー)、シェルター(卵パック)、デュビア(成虫)3匹を入れた。これらを23℃、20℃、17℃、14℃、11℃、8℃、5℃に設定したインキュベーターに入れて飼育した。また、ひとつのケースを1月の屋外に放置し、飼育した。これらについて10日間を最大とし、何日生存できるかを調べた。

### 結果と考察

インキュベーターで飼育した結果を表1に示す。最低気温の5℃でも10日間なら3匹とも死ぬことはなかった。14℃では3匹中2匹が死んでしまったが、サンプル数が少ないため偶然が重なった結果と考えており、これは特に重要な意味は持たないと判断している。なお、インキュベーターの性能上、5℃未満での実験はできなかった。また、屋外に置いていた結果を表2に示す。期間中に最低気温が-3℃の日もあったが3匹とも死ぬことはなかった。

ここまでは卵パック有りの実験であるが、卵パック無しではどうなるのか疑問に思ったため、11℃のインキュベーターで卵パック無しで実験してみたところ、数日で3匹とも死亡してしまった。

以上のことからデュビアは卵パック程度の寒さを凌ぐ場所があれば冬を耐え抜いて、日本(関西)に定着することが可能であるのではないかという予想がたてられた。今後の実験では5℃未満の低温ではどこまで耐えることができるか、低温を一定期間耐え抜いた個体が脱皮や繁殖できるか、小さな幼虫がどこまで低温に耐えることができるか、この3点に焦点をあてて調べたいと思う。

表1:インキュベーターでの飼育

飼育温度	生存数/飼育数
23℃	3/3
20℃	3/3
17℃	3/3
14℃	1/3
11℃	3/3
8℃	3/3
5℃	3/3

表2:1月の屋外での飼育

日付	最高気温	最低気温	生存数/飼育数
1月8日	1℃	-3℃	3/3
1月9日	3℃	-3℃	3/3
1月10日	3℃	-1℃	3/3
1月11日	6℃	0℃	3/3
1月12日	6℃	1℃	3/3
1月13日	9℃	1℃	3/3
1月14日	13℃	3℃	3/3
1月15日	13℃	5℃	3/3
1月16日	14℃	7℃	3/3
1月17日	9℃	5℃	3/3